

実習日：平成 29 年度第Ⅱ期 11 月 15 日

実習先：大分市医師会立アルメイダ病院

大学名・学年：崇城大学 5 年

氏名：吉野杏樹

大分ゆふみ病院に来て、まず、病院というより旅館のような印象を受けました。ソーシャルワーカーの方に病院の特徴を教えていただき、全ての部屋から外の自然豊かな風景を眺められることや、ベッドのまま外に散歩に行けること、お風呂に入れることを知りました。ラウンジにあるファミリーキッチンには冷蔵庫やオーブンなどの他にかき氷機もありました。患者さんにとって水を飲むより氷のほうが食べやすく、かき氷機は冬でも欠かせないものだと知りました。患者さんは、なごやかな空間でボランティアの方や他の患者さんとふれあうことができ、心が落ち着くだろうと思いました。

カンファレンスでは、意味を知らない専門用語を多く聞きました。病棟業務を行うためにもしっかりと専門用語を学び、現場で理解できるようになりたいと思いました。また、患者さんの家族関係の情報も共有し、職員全員で患者さんとその家族にとって最善の方法を考えていました。

入院処方調剤や、貼付剤の服薬指導のロールプレイも行いました。一般病棟の調剤に比べて処方された薬剤の種類や処方の数が少ないと感じました。麻薬の管理や麻薬譲受証の書き方も学ぶことができました。服薬指導では、患者さんにわかりやすい言葉で伝えるだけでなく、前向きになれるような言葉を添えたり、手を握ったりして安心感を持ってもらうことも大事だと学びました。

緩和ケアチームでの薬剤師の役割は、薬の管理や処方の計画への参加の他にも、患者さんの痛みや苦痛を取り除き、その先に患者さんが希望することの手助けをすることだと学びました。当院で過ごされた患者さんのビデオはとても胸を熱くさせました。また、院長講義で、ホスピスにいる患者さんの苦しみは痛みよりも全身倦怠感や食欲不振が上回ることを聞き、驚きました。患者さんの訴えを傾聴し、患者さんの望むことを後押し出来るような薬剤師になりたいと思いました。

この実習は、緩和ケアや麻薬について学ぶことができ、将来なりたい薬剤師像を考えるきっかけにもなりました。ありがとうございました。